

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 5 月 9 日 (2019.5.9)

【公表番号】特表 2018-511681 (P2018-511681A)

【公表日】平成 30 年 4 月 26 日 (2018.4.26)

【年通号数】公開・登録公報 2018-016

【出願番号】特願 2017-551198 (P2017-551198)

【国際特許分類】

C 0 9 K 3/10 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 K 3/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成 31 年 3 月 25 日 (2019.3.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

本明細書に記載の本発明の実施形態が現時点では好ましいが、本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく、様々な変更及び改良を加えることができる。本発明の範囲は添付の特許請求の範囲により規定されるが、等価物の意味及び範囲内にある全ての変更も本発明の範囲に包含されることが意図される。以下、本発明の実施形態の例を列記する。

[1]

約 2 5 重量 % ~ 約 7 5 重量 % の、約 1 0 5 0 秒を超える機械的安定性を有する天然ゴムラテックスと、

約 2 5 重量 % ~ 約 7 5 重量 % の不凍水溶液と、
を含むパンクシーリング組成物であって、

前記不凍水溶液が、該溶液の重量基準で約 1 0 重量 % ~ 5 0 重量 % の水と、約 2 0 重量 % ~ 6 0 重量 % のグリセリンと、約 2 0 重量 % ~ 6 0 重量 % のプロピレングリコールとを含む、パンクシーリング組成物。

[2]

前記天然ゴムラテックスが凝固剤を実質的に含まない、項目 1 に記載のパンクシーリング組成物。

[3]

前記天然ゴムラテックスが高度に濾過されている、項目 2 に記載のパンクシーリング剤。

[4]

前記天然ゴムラテックスの平均粒子径が約 4 0 0 ミクロン以下である、項目 1 に記載のパンクシーリング組成物。

[5]

前記天然ゴムラテックスが天然ゴムとアンモニアとを含む、項目 1 に記載のパンクシーリング組成物。

[6]

約 4 0 重量 % ~ 約 6 0 重量 % の前記天然ゴムラテックスと、約 4 0 重量 % ~ 約 6 0 重量 % の前記不凍水溶液とを含む、項目 1 に記載のパンクシーリング組成物。

[7]

前記不凍水溶液が、該溶液の重量基準で約 1 5 重量 % ~ 3 5 重量 % の水と、約 3 0 重量

% ~ 45 重量% のグリセリンと、約 30 重量% ~ 45 重量% のプロピレングリコールとを含む、項目 1 に記載のパンクシーリング組成物。

[8]

約 35 重量% ~ 約 65 重量% の天然ゴムラテックスと、
約 35 重量% ~ 約 65 重量% の不凍水溶液と、
を含むパンクシーリング組成物であって、

前記不凍水溶液が、該溶液の重量基準で約 15 重量% ~ 35 重量% の水と、約 30 重量% ~ 45 重量% のグリセリンと、約 30 重量% ~ 45 重量% のプロピレングリコールとを含む、パンクシーリング組成物。

[9]

前記天然ゴムラテックスが凝固剤を実質的に含まない、項目 8 に記載のパンクシーリング組成物。

[10]

前記天然ゴムラテックスが高度に濾過されている、項目 8 に記載のパンクシーリング組成物。

[11]

前記天然ゴムラテックスの平均粒子径が約 400 ミクロン以下である、項目 8 に記載のパンクシーリング組成物。

[12]

前記天然ゴムラテックスが、約 55 重量% ~ 65 重量% の天然ゴムと、最大約 0.25 重量% のアンモニアとを含み、実質的に残りは水である、項目 8 に記載のパンクシーリング組成物。

[13]

約 45 重量% ~ 約 55 重量% の前記天然ゴムラテックスと、約 45 重量% ~ 約 55 重量% の前記不凍水溶液とを含む、項目 8 に記載のパンクシーリング組成物。

[14]

前記天然ゴムラテックスの平均粒子径が約 400 ミクロン以下である、項目 13 に記載のパンクシーリング組成物。

[15]

約 35 重量% ~ 約 65 重量% の、凝固剤を実質的に含まない高度に濾過された天然ゴムラテックスと、

約 35 重量% ~ 約 65 重量% の不凍水溶液と、
を含むパンクシーリング組成物であって、

前記天然ゴムラテックスが、該ラテックスの重量基準で約 55 重量% ~ 65 重量% の天然ゴムと、約 0.25 重量% 未満のアンモニアとを含み、実質的に残りは水であり、

前記不凍水溶液が、該溶液の重量基準で約 15 重量% ~ 35 重量% の水と、約 30 重量% ~ 45 重量% のグリセリンと、約 30 重量% ~ 45 重量% のプロピレングリコールとを含む、パンクシーリング組成物。

[16]

約 45 重量% ~ 約 55 重量% の前記天然ゴムラテックスと、約 45 重量% ~ 約 55 重量% の前記不凍水溶液とを含む、項目 15 に記載のパンクシーリング組成物。

[17]

無機粉末を更に含む、項目 15 に記載のパンクシーリング組成物。

[18]

前記無機粉末の平均粒径が約 150 ナノメートル以下である、項目 17 に記載のパンクシーリング組成物。

[19]

前記無機粉末が、炭酸カルシウム、炭酸バリウム、二酸化ケイ素、二酸化チタン、硫酸カルシウム、硫酸バリウム、酸化アルミニウム、及びそれらの組合せからなる群から選択される、項目 17 に記載のパンクシーリング組成物。

[2 0]

約 0 . 5 重量 % ~ 2 . 5 重量 % の前記無機粉末を含む、項目 1 7 に記載のパンクシーリング組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

約 2 5 重量 % ~ 約 7 5 重量 % の、約 1 0 5 0 秒を超える機械的安定性を有する天然ゴムラテックスと、

約 2 5 重量 % ~ 約 7 5 重量 % の不凍水溶液と、
を含むパンクシーリング組成物であって、

前記不凍水溶液が、該溶液の重量基準で約 1 0 重量 % ~ 5 0 重量 % の水と、約 2 0 重量 % ~ 6 0 重量 % のグリセリンと、約 2 0 重量 % ~ 6 0 重量 % のプロピレングリコールとを含む、パンクシーリング組成物。